

TFG News 2005-3



「青少年自立のための職業訓練支援inスリランカ！」

NPO法人 タランガ フレンドシップ グループ(TFG)

本部: 〒510-0298 鈴鹿市郡山町663-222 鈴鹿国際大学・クマーラ研究室内

TEL/Fax: 0593-72-3974

ホームページ <http://www.e-net.or.jp/user/taranga/>

Email: taranga@e-net.or.jp

スマトラ沖地震によるスリランカの被害

スマトラ沖災害も忘れ去ろうとしていますが、2004年12月26日はTFG理事長のアーナンダ・クマーラ先生 三重県支部の辻井博農業専門員、縫製を担当する私でスリランカ職業訓練校支援活動で現地訪問の最終日でした。25日はスリランカ滞在を終えて帰国前夜の為に少しゆっくりと体を休めようと、南部のホテルに予約を入れようとしていましたが、この日に限り、何所のホテルも一杯で泊まる事が出来ません。

この日は仏教の満月の夜に当たり、お金のある人たちは家族とともにホテルに泊まり楽しみ、ある人はクリスマスの為にホテルに宿泊するなど、満月の夜とクリスマスが重なり何所も満室状態でした。止む無くキャンディーの山の中のホテルが一軒だけ空いた部屋がありそこに泊まらざるを得ませんでした。ホテルについて驚いたのは、今日オープンのホテルでした。山の斜面に作られた小さなホテルでオープンとはいえ階段のテスリやレストランの窓枠も出来ていないままオープンしたホテルでした。それでも何所も空いていないためにここに泊まるより方法も無く止むに止まれずスリランカの最後の夜を過ごしました。

26日の朝ホテルを出発して紅茶を買い求め帰国のための荷物の準備にかかりました、その時に車のラジオを聴いていたマイクロバスの運転手がクマーラ先生に何か急いで伝えていました。内容は海岸で死者が出たとのラジオ放送でした。それからラジオはひっきりなしに津波に

よる被害状況を伝え犠牲者の数がどんどん増えてゆきました。丁度 神戸の地震のときのように犠牲者の数が聞くたびに増え大変な事が起きた事を知りました。

既にコロomboの空港にまで水が押し寄せ空港が危ないとの予測も出始め26日の



スリランカ南部・津波被害者の仮設住宅 2005年9月

深夜便で帰国する辻井博さんと私は取り合えず空港へ行くことにした。途中の道路が水浸しで通れないようでは困るので早めに空港へ向けて出発。空港へは4時に到着しクマーラ先生は状況を調査の為に引換えしました。そのときはこんなに大きな犠牲者が出るとは全く思いませんでした。飛行機の待合室にいるときにクマーラ先生の携帯に日本から電話が入り、われわれ全員が無事であると返事した。

既に空港のテレビには津波の惨状が映し出され多くの人が水に流されてゆく画面が映し出されスリランカでの出来事は考えられませんでした。帰国の飛行機は荷物は受付たものの、コロomboへ到着予定の飛行機は着ません。

丁度香港経由の便だけがあり急いで乗せて頂き帰国することが出来ました。

あの時、もし何時ものように南部の海岸沿いのホテルに泊まっていたら私達3名は犠牲となっていたことは明白です。運良くホテルが満室の為に私達3名は災害に会わずに済んだのでした。神様が守ってくださったとつくづく感じました。(片岡 功)

2005年9月 スリランカの被災地を訪ねて!

●スマトラ沖地震災害発生時からTFGの支援活動が続けられていましたが、あらためてあの時の被災地を訪れてみる事にしました。

●多くの方々からの義援金が現地でどのように使われ、役に立っているのかを知るために又義援金を授かった多くの人たちへの報告をかねての訪問でした。

●TFGは2004年12月27日(災害の翌日)から現地にとどまったクマーラ先生とマーネルさんや現地TFGの支援者が被災地を訪問支援活動は2005年N01のニューズレターでお知らせしたとおりです。

●今回の現地訪問は、その後の現地状況支援活動の成果を計る上で大切な訪問でした。

(片岡 功)



WTIにて農業コース終了式

●女性24名が修了証書を受ける!

TFGではWTI(職業訓練校)では農業一般、機械化農業、パソコン指導、縫製ミシン指導、植林事業に関っています、日本からTFG会員が現地へ入る時はこのいずれかの研修修了生の卒業式に参加出来るような日程を組んで入ります。今回は一般農業研修(女性対象)の卒業式に参加しました。

研修の成果を確認するためにWTIの研修講師は卒業生を2グループ(赤組 黄組)に分けQ&A方式で指導員が質問し答えられなかった人は何かのパフォーマンス(歌を歌ったり・・・)をしましたグループ対応の戦いは赤組355 対黄組330の得点で終了。

卒業生の中で米の収穫は年間2回でしたが今年は1回しか収穫できなかった。そのため他の方法で収入を考えなければならない。そうした時にWTIでの研修は新しい情報と知識を与えてくれて大変良かったといわれ感動しました。

津波支援事業紹介

● ダンガッラ・Vihara Maha Devi Maha Vidyalaya 校 (スポーツ用品と伝統文化を守る楽器・スリランカダンス衣装寄贈)(中高一貫教育の学校)

全校生徒650名ですが被害の校舎には授業が出来ないために小学生200名が他の高校へ移っています。訪問した時はダンスの練習中でした。10月に町のイベントに参加するために猛練習中。この学校へはスポーツ用品とスリランカダンスのための民族衣装を40人分、楽器は太鼓8個シンバル2個、その他楽器修理に14個が完成しました。これも一般から寄贈されたお金がTFGを経由して使われました。この学校では生徒が4人亡くなり13人の親が亡くなった家が流された人は100人に及ぶ。

学校の先生が指差しているのは津波がこの高さまで押し寄せたと津波の後を見せてくれました。学校の窓ガラスにも津波が押し寄せた後が今でも残って

●被災地支援について TFGの考えは・・・

被災地を視察し義援金のその後の活用状況を見て回りました。親や子供が犠牲となり甚大な被害を受けましたが、住民や学校など不自由ながら力強く立ち直ろうとしています。

災害当時は被災地へ日本から物資支援が行われました。然し我々が想像した以上スリランカには支援物資が豊富でした。日本でも災害時には緊急物資の支援が各地から行われ経済活動が災害時には活発に行われた経験があります。それでも今回の地震災害では国自体に大きなダメージを受けました。

そうした中でスリランカに対し何をすべきか、物資支援でよいのだろうか。その国の経済活性化のためには日本から物資を支援する事がその国の経済にはたして良いことなのか、資源に恵まれないNGOはこのような時に何をすべきか。文房具を大量に送ったり、日本の不要となった衣料を送ることが果たしてその国の支援となりうるだろうか、TFGはこうした支援についての問題点を探る良い機会でも在りました。

津波の後の水位はここまででしたよ！
学生用の道具も全部流されたり、使えなくなったりして、今はとても困っているんだけど・・・校長先生・・・(写真:下)



います。

南部の海岸沿いの国道を走ると、打ち上げられた船の残骸が放置されたままです。

あいごう!! TFGの活動を支えて下さっている皆様に感謝をいたします。

南部地域の災害支援状況とTFG

南部の津波で被害を受けた、マータラ、ダンゴール、ベリガマ、ゴール視察調査を!

● ジャナーディパティ学校 (大統領記念校) 訪問

この日は、バスケット150個持参し訪問する。寄付金も5,000Rsを贈る。災害で被害を受けたためにTFGが当時図書を3500冊寄贈(図書館6500冊のうち)。

講堂には先生生徒が集まりTFGを歓迎してくれました。皆さんの前で今回も「文具と小切手合計 10,000Rs」を贈る。日本の「美濃和紙の絵」を寄贈しました。学生が描いた絵を預かり、また訪問する約束を交わせ出発。

● タラッラ南校訪問 (ベル塔・ミシンを寄贈)



この学校は海岸に接しているために直接大きな被害を受け、仮設の校舎で授業が行われています。生徒に知らせる時間の合図は自動車の部品(タイヤを支えている金属)を木に吊り叩いて知らせていました。

前回の皆様からの義援金の中から津波災害を機に今回緊急用に村全体にも響き渡り緊急事態を知らせる「ベル塔」建設資金を渡しましたそのベル塔の完成とプレートにはTFGからの義援金によると記されています。その他ミシンを寄贈も寄贈するための資金を渡してあります。(上の写真はTFGの資金により立てられたベル塔です)

● 事務局よりおねがい !!

パソコンで資料作成などができるボランティアの方を探しています。

TFGのニューズレターの作成やホームページの更新などの手伝いのためです。インターネットを利用できる環境があれば、住んでいる場所はあまり関係ありません。

空いている時間やその才能をTFGの活動の充実のために役立たせていただけませんか。大学生や社会人、主婦などどなたでも結構です。

連絡はメールか電話でTFG本部へ

また、TFG活動への資金提供、会費納入などは下記の口座へ。

★ 口座名 タランガ フレンドシップ グループ
★ 口座番号 郵便貯金口座 00830-3-102563
大垣共立銀行扶桑支店 普通口座 123856
メール: taranga@e-net.or.jp ☎ 0593-72-3974

● オアンジャカマ村(植林事業)見放された村へTFGの支援が届く

この村は支援を全く受けた事が無く、WTIが初めて支援体制を作り、この村の指導はWTIが中心となり植林、やバナナの栽培に力を入れてきた。この支援も元はTFGであり、このような遠いところまで日本のTFGが来てくれるとは思わなかった、トモモ感動しています。これからも忘れずにいて欲しいと村の代表が挨拶された。我々には盛大なバンド演奏で入村歓迎。



今回の指導は村の将来を築く上での大きなプロジェクトであり、村人は関心を持って我々一向を迎えてくださいました。大勢の村人が集まる中でクマーラ先生の村の発展に繋がるお話をされました。スリランカ政府の農業公社指導員も同行しており、記念すべき訪問でした。

この村で日本の印象を聞いたところ日本について知ってる人がたった2人でした、又「発展国・車が良い」と答えた。

この村からWTIの研修に参加した人(女性6 男性3)からの要請で今回この村に入り植林事業をおこなう事が出来ました。TFGから寄贈された苗木はマンゴ 200、チーク1,000 マホガニ1,000ジャックフルーツ100本 計2300本。

遠く離れた陸の孤島のようなこの地ではTFGの支援で初めて情報が入り、村の活性化の第一歩をWTI関係者とともに実施できたことに大変喜んでくださいました。(写真は、研修生、北西州政府役員、WTI 研修指導者、住民、学生の前での挨拶するクマーラTFG理事長)

● デカンコウエン村(縫製ミシン研修)!!

WTIの所長グーラセーカラ氏も同行

(2005年6月23日にオープンしたばかりの研修所)

山の中の村でWTIから山道を走り約2時間、クルネーガラのホテルを出発しWTIへ立ち寄り3時間かけて11時に到着しました。

WTIからは大変遠い村です。デカンコウエン村のミシン研修学校当初20数名で始めたが16名が研修を受けていた(貧しくて教材を買うことの出来ない女性8名が来なくなった)経済的に貧しい人たちの為に教材の購入を考



えする必要がありました。今後の課題より直ぐにでも購入する

必要があります。また、人里離れた場所の為にせっかく製品を作成しても売る方法が無いために流通を今後考える必要を感じる。(後ろの黄色の看板を掲げたミシン教室)ここでも日本から女性雑誌、ファッション雑誌などを持参する必要があります。価値観の概念が無く手先の器用な女性達の技術を生かすためにも日本から雑誌などを今後持ち込むことが大切です、新しい雑誌でなくとも、日本の家庭

などにある雑誌を是非持参したいものです。



などにある雑誌を是非持参したいものです。



オアンジャカマ村でTFG訪問団を待っている学生たち・住民